

子どもたちの「生きる力」を育むために

Action (アクション)

～ できることを あるものを使って 今いるところで はじめよう ～

令和2年12月

岡山教育事務所生涯学習課

「予測困難な時代」「Society5.0」「変化の激しい時代」を迎えるってよく聞くけど…

これからの時代をたくましく生き抜くには、子どもたちはどんな力が必要なの？



保護者



中山 芳一 氏
(岡山大学)

テストなどで測ることができる力を「認知能力」と言い、
テストなどでは測れない力を「非認知能力」

と言います。

この2つの能力はどちらか一方を伸ばすのではなく、どちらも伸ばしていくことが大切です。**「非認知能力」は新しい能力ではありませんが、これからは特に必要とされる力**として注目されています。

12月6日に岡山県生涯学習センターで開催した「第2回放課後子ども教室・土曜日の教育活動研修会」の中山芳一氏の講義『放課後だから伸びる 放課後だから伸ばしたい そんな子どもたちの力のために！』の内容の一部を紹介します。

伸ばしたい「非認知能力」を3つ枠組みで整理！



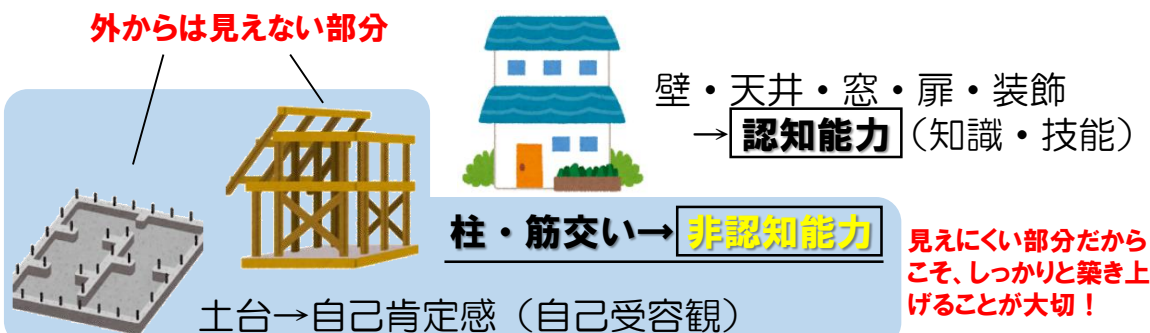
【解説】

これらの3つの能力群は、それぞれが別々に作用するものではなく、**お互いに高め合ったり、引っ張り合ったり**するような相関関係にあります。

やみくもに全ての力をもれなく伸ばしていくというよりは、**必要に応じて使いこなしていけることが大切**です。

また、非認知能力は「自分の内面に関わる力」なので、**自分の意識によって変わりやすい力**と言えます。

「非認知能力」は家の柱や筋交いのような存在



【解説】

土台や柱・筋交いをおざなりにしたままで天井や壁ばかりを取り付けると、その家は少しの揺れでもあつという間つぶれてしまいます。

裏面「非認知能力の育て方」

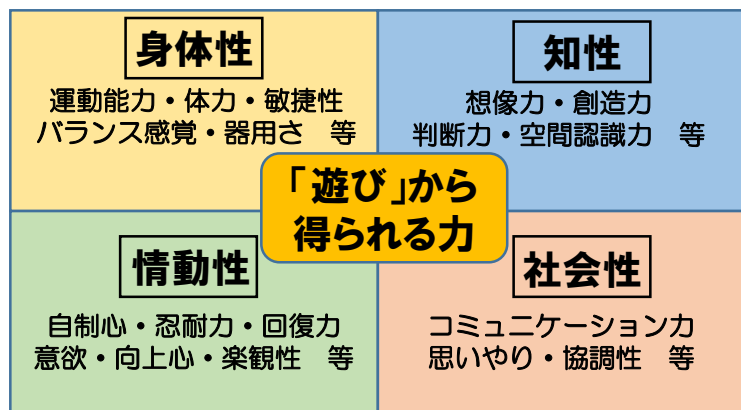


「非認知能力」って
どうやって伸ばすの？育てるの？

放課後の魅力が
非認知能力をさらに
伸ばします！



多様な力が得られる「遊び」の世界を大切にしよう！



【解説】

子どもにとっての最高の刺激は「遊び」です。大人が「遊ばせる」のではなく、

- ・自分のやりたいようにできる
- ・(工夫次第で)もっと楽しくなる
- ・「楽しい」「悔しい」がある
- ・異年齢の仲間がいる



ような子どもたちの遊びと放課後（学校外）の時間を大切にしましょう！

プロセスを見取り、意識付けるためのレンズを持つよう！

①「自分と向き合う力」レンズ



困難なことや凹むようなことがあっても、我慢したり、気持ちを落ち着かせたり、気持ちを切り替えしたりして、自分と向き合おうとしてきた姿はあったらどうか？

②「自分を高める力」レンズ



意欲や向上心をもってやってみようとしたり、自分を信じて挑戦してみたり、楽しそうに取り組んだりして、自分を高めようとしてきた姿はあったらどうか？

③「他者とつながる力」レンズ



他の人とやり取りをしながら助け合ったり、励まし合ったり、支え合ったりして、他者とつながろうとしてきた姿はあったらどうか？

【解説】

非認知能力は、付けさせるのではなく、「自分が伸ばしたい。自分にとって必要だ。」という自分自身の意識によって身に付いていきます。

ではそのように意識付けるためにはどうしたらよいのでしょうか。**ポイントは「ほめる」と「叱る」**です。

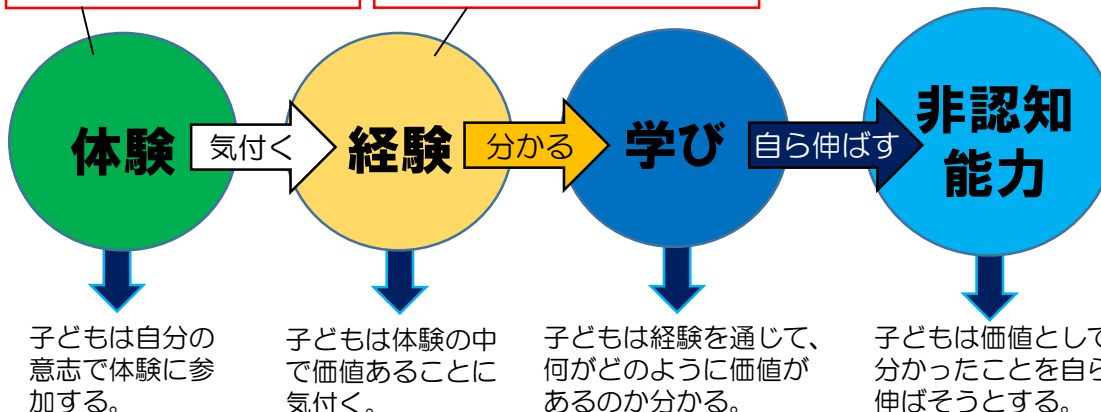
つついゴール（結果）に一喜一憂しがちですが、3つのレンズ（観点）を使って**プロセス(過程)を見取り、意識付けたり価値を共有したりすることが大切です。**



子どもたちの体験を経験と学びに変えよう！

大人は子どもの「やりたい」気持ちを尊重しましょう！

大人はレンズで見取り、子どもと価値を共有しましょう。



【解説】

人は、体験したことを自分の中へ内面化して経験に変えます。

そして、その経験を振り返ることで、新しい気付きや教訓を見出して学びに変えていきます。

【中山氏の講義録画の視聴について】

「第2回放課後子ども教室・土曜日の教育活動研修会」での中山氏の講義録画の視聴を希望される場合は、岡山教育事務所生涯学習課(086-221-7776)までご連絡をください。